
苦悩

猫目石

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

苦悩

【Nコード】

N2285T

【作者名】

猫目石

【あらすじ】

『濁流』の続きになります。

殺生丸の心情が中心の作品です。

結界を抜けた瞬間、殺生丸の鼻腔に飛び込んできたのは異様な臭いだった。

同時に膨大な量の水が目に入ってきた。

それも透明な水ではない、汚い濁った水。

泥が溶け込んだ黄色とも茶色ともつかぬ黄土色の水、泥水だ。

当然、無色透明の水とは匂いからして別物だ。

雑じり合った泥が水の匂いを凌駕して臭気を放つ。

これほど大量の泥水が視界を覆っているということは……。

未曾有の大雨が降ったということか。

大量の雨水が大地の泥を溶かし水路から溢れ陸地を侵略。

その結果が、この濁った泥水に覆い尽された下界という訳だ。

殺生丸は阿吽に拍車を入れ村へと急いだ。

りんの身が案じられてならなかった。

今回の訪問は、何故か、西国を出る前からモヤモヤと胸に蟠るものがあつた。

それは払っても払っても胸の奥にこびり付き、どうしようもなく殺

生丸の心を波立たせた。

だからこそ闇雲に阿吽を急かし人界への道を急いだ。

気流を貫くような最高速度で結界に突っ込み、そのまま一気に突っ

切ってきたのだ。

そして、今、悪い予感^{よかん}は現実のものとなった。

大水は下界の様相を一変させていた。

大雪のように、イヤ、それよりも遙かに性質が悪い。

大雪も多少の混乱を齎しはするが、大水の場合は比較にならない。

文字通りの大混乱を齎す。

泥を大量に含んだ汚水は田畑を人家を全てを呑み込み壊滅的な被害

を与えるのだ。

程なく、りんの住む隻眼の巫女の家が視界に入ってきた。

村の大部分が水中に消えていたが、幸い、りんを預かる巫女の家は小高い丘の上にある。

水没は免れたようだ。

だが、様子が可笑しい。

私を見るなり、何時も、笑顔で出迎えるりんの姿がない。

代わりに老いた隻眼の巫女が、それだけではない、犬夜叉が、かごめが、法師が、女退治屋までもが雁首揃えて待っていた。

一体、何があったのだ!?

阿咩を上空に滞空させたまま下界へと降りる。

トン！と殺生丸が沓音も軽く地を踏めば隻眼の巫女が一步近付いて跪いた。

老いた顔には苦悩からだろうか、憔悴の表情が色濃い。

「兄殿、・・・りんが行方知れずになりました。お詫びのしようもありません。責めは全て、この老い耄れの婆にあります」

地に伏して殺生丸に詫びる老いた巫女を庇うように、犬夜叉が、かごめが叫ぶ。

「楓!」「楓婆ちゃん!」

殺生丸の毛皮にしがみ付いていた邪見が悲鳴のような声を上げた。

「なっ、なっ、何じゃとおっ!?! それは真かつ!?! 楓っ!」

不気味なほど静かに殺生丸が巫女に訊ねる。

「……何時いつからだ」

しわがれた声で老いた巫女が答える。

「……大雨が降り出した三日前から」

邪見が人頭杖を振り回して金切り声で犬夜叉達を責める。

「うっ……うぬらは、一体、何をしてたんじゃっ!？」

女退治屋が絞り出すように言葉を重ねてきた。

「蝶がつ!見たこともない……綺麗な蝶が……飛んでたんだ。りんは……それを追って川の方へ。その後……直ぐに雨が降りだして……これ迄に経験したことがない……もの凄い大雨だったんだ。アツという間に水が……そこら中じゅうから溢れ出して……りんを……捜しに行くことさえ……出来なかつたんだ!」

殺生丸は犬夜叉の方に顔を向けた。
刺し殺すような視線が「貴様は何をしていた？」と問い掛けている。
犬夜叉は顔を顰めて腹違いの兄に詫びる。

「すまねえっ！俺と弥勒は・・・仕事に出かけていなかったんだ」

弥勒も犬夜叉と同じように拗所ない事情を口にする。

「誠に申し訳ない。私と犬夜叉は・・・大雨で仕事先に足止めされ、昨日、戻ってきたばかりなのです」

ギリ・・・今にも爆発しそうになる感情を殺生丸は歯を喰い縛って必死に堪えた。

ツウツ・・・血が一筋、口許を伝って流れ落ちた。

身の内に滾る憤怒は今にも火山のように噴き出しそうな程に熱い。

それとは逆に考え得る最悪の結果を想像すると心が瞬時に凍りつきそうだった。

ガッ・・・殺生丸は右手を固く結んだまま左手を腰に差した爆碎牙に掛けて抑えた。

それでもしなければ直ぐにも爆碎牙を抜いて目に映る一切を消してしまっただろう。

荒れ狂う心のまま耐え難い苦悶に翻弄されて。

そのまま地を蹴って殺生丸は上空で待機している阿吽に跨り水の流れに沿って飛び始めた。

りんを見つげ出せればと一縷の希望に縋って。

そんな殺生丸の必死な思いを嘲笑うかのように視界を覆う黄土色の

水は混濁した泥と水の中に全てを隠匿し続けた。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2285t/>

苦悩

2011年7月9日04時52分発行